

平成21年10月1日
日本百貨店協会

～ 全国250店舗で展開する『百貨店を遊ぼう!』キャンペーン・コアイベント ～ 『全国百貨店けんすい幕川柳』の入選作について

日本百貨店協会(会長:鈴木弘治 高島屋社長)では、10月1日にスタートする『百貨店を遊ぼう!』キャンペーンのコアイベント『全国百貨店けんすい幕川柳』について、選者のやすみりえ氏による優秀作の選考を進めてきましたが、この程3つの優秀作(グランプリ、日本百貨店協会賞、やすみりえ賞)及び全国250店舗それぞれの各店賞が決定しましたので、下記の通り発表いたします。

(※本リリースでは紙面スペースの関係から、各店賞についてはキックオフイベント会場の三越本店賞を一列に掲載)

【グランプリ】

贈りもの大きな手から小さな手

《受賞者》

宇賀神有咲様(10才)
(応募店/スズラン前橋店)

【日本百貨店協会賞】

さうげなくギフトに込めるワタシいろ

《受賞者》

中川ゆみこ様
(応募店/天満屋岡山店)

【やすみりえ賞】

思い出のリボンがふえるプレゼント

《受賞者》

飯塚典子様
(応募店/そごう千葉店)

【三越本店賞】

ランドセル贈った孫から肩もみ券

《受賞者》

宇野邦久様

※ 裏面に『全国百貨店けんすい幕川柳』の実施概要を記載

【『全国百貨店けんすい幕川柳』の実施概要】

1. 募集期間 : 平成21年8月10日～9月10日(1カ月間)
2. 募集方法 : 日本百貨店協会のホームページ、協会加盟会員店掲出ポスター・POP、新聞広告、車内吊り広告等で応募方法を告知
3. お題 : 「親・子・孫への贈り物」
(「まごの日」(10月18日)と「ギフト需要の掘起こし」を掛け合わせたテーマ設定)
4. 応募総数 : 15,255句

《参考》川柳募集は、ここ数年のブームで年間2,300企画ほどであると推定される。その応募数のほとんどは数千～数百。最も著名な「第一生命のサラリーマン川柳」で第22回(08年)の応募数が2万2千強といわれている。また、今回の応募作の特徴としては、限定的なテーマ設定や応募対象者の絞り込みを行わなかったこともあって、一部マニアだけでなく、百貨店顧客を中心とした幅広い階層からの応募となっている。

5. 作品審査 : 審査委員長(選者)の やすみりえ氏により、9月10日の締め切り後約2週間を掛けて、グランプリ以下優秀作3賞、及び応募者居住地の最寄百貨店(250の応募店)それぞれで表彰を行う各店賞の審査も行った。

《やすみりえ氏プロフィール》神戸市出身。大学卒業後本格的に作句を開始、恋をテーマにした句を中心に川柳を詠み続けている。朝日カルチャーセンター湘南校講師。文化庁国語課「言葉について考えるワークショップ」では全国を回り、こども達に川柳の楽しさを伝える活動をしている。また大人を対象とした各地の講演でも川柳の魅力を伝えている。各メディアで多数の川柳コーナーを担当、選者も務めるかたわら最近ではテレビやフォーラムのコメンテーターとしても活躍。

6. 賞品 : グランプリ1名(共通商品券30万円)、日本百貨店協会賞1名(同10万円)、やすみりえ賞1名(同10万円)、各店賞(各店自社商品券等1万円)

7. 発表期間 : 平成21年10月10日～10月31日
上記の発表期間中、日本百貨店協会に加盟する全国250店舗において一斉に優秀作やそれぞれの各店賞を懸垂幕で掲示します。(※懸垂幕設備のない店舗では店内パネル展示で対応)
また、各店賞の表彰はそれぞれの店舗が独自の方法で実施します。

以上